

令和3年度 第2回鹿児島市環境審議会 会議概要

【日 時】

令和3年10月26日（火） 15時00分～16時35分

【場 所】

市役所東別館9階 特別中会議室

【出席委員】

有山委員、伊荻委員、江口委員、川原委員、長船委員、小山委員
諏訪委員、富安委員、丸山委員、三原委員、森田委員

【会 次 第】

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 各計画の令和2年度実施状況について
 - ① 第二次環境基本計画 ② 地球温暖化対策アクションプラン
 - ③ 再生可能エネルギー導入促進行動計画 ④ 生物多様性地域戦略
- 3 その他
- 4 閉会

【議事概要】

委 員：第二次環境基本計画の数値目標でC評価だったものについてご説明いただいたが、太陽光発電システム設置件数については、固定価格買取制度の買取価格が背景にあるとの説明であったが、これは今後も続くことであり、改善が望めないように思うが、次期計画ではどのような方策を考えられているかお聞かせいただきたい。

事務局：太陽光発電に関する数値目標に対する現況値については、本市の補助件数を基に算出しており、補助件数が伸びなかったために評価がCとなっている。これは、説明にあったように固定価格買取制度の買取価格が年々下がっていき、設備設置者が魅力を感じなくなってきた点はあるかと思う。しかし、年間300件程度補助をしているのに対し、新しく設備を設置した方は市内に900件あり、補助を利用しない設置が多いことも分かる。そこで、次期計画では、新築住宅にどのくらい太陽光発電設備が設置されているかを数値目標にしたいと考えている。方策としては、補助を引き続き実施するとともに、補助を受けずに設置する方も多いので、再生可能エネルギー利用の必要性について周知広報に努めていきたい。また、PPAという屋根貸しの制度など、新たな方策についても今後考えていきたい。

委 員：1人1日あたりのごみ・資源物の排出量が減少傾向にあるのは、人口減少に関係するのか。それとも市民の意識が上がったということになるのか。コロナで外出ができず、家で食事をする機会が増えているため、ごみが増えているのではないかと思っていたので驚いた。また、「ホームフードリサイクルグリーン事業」では、小学生向けの授業や、ダンボールコンポストの配布などを行っているが、追跡調査などを行っているのかお伺いしたい。

事務局：排出量の減少と人口減少は関係がある。それでも目標に達していないのは、「もやせるごみ」が計画通りに減少しないことが原因である。ごみの組成調査によると、もやせるごみに含まれる「生ごみ」の割合が減少していかないことが分かっているため、水

切りなど生ごみの減量化を促進するための周知広報を積極的に行っている。また、ホームフードリサイクルグリーン事業では、追跡調査は特に実施していない。申し込みのあった学校には年に3回訪問し、環境学習やダンボールコンポストの使い方講習などを実施している。

委員：「ごみを減らしましょう」という取組をされているが、ホームページで目標としている数値が2種類示されているように見えて、どちらが正しいのか。

事務局：市民の皆さんにお願いしている家庭ごみの量は、令和5年3月までに1人1日あたり470gを目標に取組を進めており、令和元年は511g、令和2年度は503gと8g減少、直近の9月末では494gと2年度末から更に9g減少しており、皆様のご協力により順調に減少している。

委員：CO₂排出量が2018年度、3年前の数字が最新版ということだが、簡易版という形で今に近い数値を把握することはできないのか。

事務局：ご指摘のように我々も3年前の数字は古いと感じているが、計算に用いる統計資料などの公表のタイミングから遅れてしまうのが現状である。他の自治体も同様に感じており、国へ要望しているところで、国もデジタル化を進めながら、これらの数値が早く公表できないかを模索しているところであるため、それらの状況も注視しながら、できるだけ早く発表できないか検討していきたいと思う。

委員：生物多様性保全スポット候補地保全マニュアルの作成について、これは市民が活用できるものであるのか。また、冊子などを作成する予定があるか。

事務局：生物多様性保全スポットは、自然環境が良好な状態で存在していること、地域を特徴づける動植物、或いは貴重な動植物が存在していること、さらに、自然観察会等ができることを選定基準として選んだところで、今後は、ホームページ等で周知していくことを考えており、冊子の作成は予定していない。